

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44番1		
自己評価作成日	平成26年1月29日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が住み慣れた地域で、楽しく日々を過ごして頂けるよう支援しています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1 事業所では「笑顔あふれる寄り添う介護、地域の人々との楽しい交流」を理念にうたっており、地域の行事へは積極的に参加し交流している。多くのボランティア(謡いの会、太極拳、民謡、蕎麦打ち、フラダンス等)を受け入れ、隣接する小規模事業所の利用者と一緒に楽しんでいる。さらに中学生の職場体験の受け入れや高校生のプラスバンドの訪問等日常的に地域住民と交流している。 2 職員の異動が少なく、管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、全職員が明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のある事業所である。利用者の表情も穏やかで明るく安心した生活を楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して暮らせる為の理念を作り、寄り添う介護を目指しています	理念には地域密着型サービスを明記しており、さらに「笑顔あふれる寄り添う介護」をうたっており、全職員が日々のケアサービスで実践している。理念は事業所内に掲示し、会議等で毎回唱和し、全職員が統一した意識のもと利用者本位の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に慰問に来て頂き、交流しています	地域の行事等には積極的に参加している。事業所の行事(夏祭り、芋煮会等)には家族と共に地域住民の参加があり、また、高校生のプラスバンドの訪問時には近隣住民と一緒に見学している。ボランティアの訪問も多く、さらに中学生及び高校生の職場体験は恒例になっており利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の機会に伝達しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議からの意見や課題等、頂いた事を検討改善し、サービス向上を目指している	運営推進委員は行政職員をはじめ各分野から選任されており定期的に開催されている。内容は事業所の状況・防災対策・事故報告等多岐にわたっている。議事録に委員からの意見や協議内容の記載が少ない。	会議の議事録は会議内容が把握できるよう記録されることが望まれる。委員から提言等があった場合には事業所としての検討結果を次回の会議等で報告することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場に相談に行ったり、運営推進会議を活用して協力関係を大切にしている	行政の担当者が毎回運営推進会議に参加しており、行政情報や利用者の状況等を常に情報交換して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で勉強会を実施し、身体拘束をしないよう実践している	「身体拘束をしないケア」の実践については全職員が弊害を理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。「言葉による拘束」等についても常に職員間で話し合いが行なわれている。日中玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で勉強会を実施し、身体上の異常がないかスタッフ間で注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会にて知識を習得している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族の不安や心配がない様、充分説明を行い、理解・納得する様努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族と話しやすい環境を作り、コミュニケーションを取り、運営に反映させている	家族が気軽に何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けている。また、面会時や利用者の状況報告等の機会をとらえ意向の把握に努めている。出された意見や要望等は「全体会議」や「ケース検討会議」等で検討され運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を開き意見等を聞くようにしている	隣接する同法人の事業所の職員を含め、職員同士のコミュニケーションが円滑に図られており、全体会議やユニット会議等で何でも話せる体制となっている。また、職員の「自己評価」や個別面談を通して意見等を把握している。職員の意見等は月例の「全体会議」等で検討され運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働き易い様検討し、就業規定の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を増やすようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ各社の中で、交流する機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心配・不安を解消できる話し合いの場を設け、安心してサービスを受けられる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの困っている事や要望等を、いつでも相談して頂ける様、声掛けしながら信頼関係を作る努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、ご家族が安心出来る支援を見極めケアプランを立て、実施するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、会話を通し共有出来る関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご本人の日頃の状況を説明し、納得して頂き、共に支えていける関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた方や場所について把握し、行きたいと言われた時は、お連れする様にしている	日常的に近隣の商店への買物の支援をしており、入居後の新しいなじみの関係を築いている。利用者の友人や近所の方の訪問や小規模利用者との交流があり、これまでの関係が少しでも長く継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、会話しやすい様な席を考慮し、レクリエーション等で交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も心配や不安な事があれば、相談に応じられるよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の思いや希望を把握し、訴えかけの困難な方には必要に応じた支援を行う	担当者制を採用しており、全職員が利用者との日々の生活の中で、些細な言動や行動から利用者の意向を把握するように努め、日々のケアに活かせるよう努めている。書初めや七夕の短冊に希望や要望を書いてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などに、慣れ親しんだ生活環境の情報を頂き、把握するように努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常での表情や動作を観察し、職員間で情報を共有し、状態の変化を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を中心に、家族やスタッフと話し合い、介護計画を作成している	利用者の現況把握に努め、利用者、家族の意向を確認して利用者の現状に即した介護計画を作成している。個別記録をもとに担当職員を中心にモニタリングを実施して定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合には随時話しあい介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況・生活内容の記録を記入し、職員間で話し合い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の生活状況に合わせ、その都度生まれるニーズに職員全員で柔軟な支援が出来る様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が希望される買い物は、近くの商店に同行し、安全に楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にスタッフ同行で受診したり、ご本人希望時や体調不良時も常に対応出来る様支援している	かかりつけ医の受診を支援している。受診には家族対応を基本としているが、状況によっては職員の対応もある。協力医療機関及びかかりつけ医の往診受け入れもあり、受診結果は家族と相互に情報の交換をし共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いた事を見逃さず、看護師等に伝え対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの病歴や状況などの情報を提供し、退院時は病院より情報を頂き対応するよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ入居者様の状況について家族と終末期に向けた話し合いをしている	事業所として「重度化・看取りに関する指針」を作成しており、重度化した場合には家族、医師、職員等で十分話し合い家族の意向に沿って柔軟に対応することになっている。終末期のケアにあたっては全職員が方針を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを含め、勉強会を行い、緊急時に対応出来る様にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員と入居者様が共に災害等の避難訓練をしたり、専門職の方々に来て頂き訓練を実施している	隣接する小規模事業所と合同で消防署立会いの防災訓練をはじめ事業所独自の避難訓練等を実施している。非常時用として米・水・麺類・缶詰類・衛生品・コンロ等を備えている。	多様な災害を想定し、全職員が利用者を安全に確実に避難誘導することができるように訓練を重ねることが望まれる。災害時の初期対応の検討や職員間の伝達訓練等も実施されることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、対応している	「個人情報の基本方針」を策定し、プライバシー保護については全職員で徹底している。職員は利用者への声かけや言葉遣いに留意し、自尊心を損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、声掛けを密にし、本人の希望を言えるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや希望に沿って生活出来る様、日々努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが表現出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べたい物を聞いたり、調理にも加わって頂き、一緒に味わいながら楽しい食事になる様支援している	調理や片付けも職員とともに行っている。家族から野菜の差し入れ等も多く、季節感のある食事を提供をしている。献立は職員が利用者の希望を聞きながら作成しており、おかゆや刻み食にも対応している。行事食や外食の支援もあり利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食べる量や水分量、ミキサー食や刻み食にしたりと状態に合わせた対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、本人の力に応じた介助を行い、就寝時には義歯の消毒も実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツ使用を減らせるよう声掛け誘導をしています	利用者個々の「排泄パターンチェック表」を把握して、トイレでの排泄の自立を目標に支援しおむつ等の使用軽減に努めている。適切な誘導等により改善された利用者もいる。朝の一杯の水・乳酸菌等の摂取により便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供し、水分量・食事の工夫等、出来る事を実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様に希望を聞き、体調に合わせてゆっくり入浴を楽しんで頂いている	利用者の希望により入浴支援をしている。入浴拒否者には時刻・話題や担当者を替え気分転換をはかりながら誘導している。入浴困難者には足湯や清拭で対応している。菖蒲湯・ゆず湯などの季節湯も楽しんでおり、入浴剤の利用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに沿った支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を把握し、薬を管理し、服薬介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・好みを把握して、気持ちよく生活出来る様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って買い物や散歩に出掛けられる様支援し、家族と出掛けられる様配慮している	好天時には散歩や徒歩での買い物等は日常的に支援している。事業所として外出支援(花見・釣り堀り・公園散歩等)を数多く計画し実践しており、季節の変化を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況に応じ対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、電話を掛けたり手紙を書いたり出来る様対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心してゆっくり出来る環境づくりをし、季節を感じられる様工夫している	共用空間は明るく広い。非常口が多く災害時の避難誘導には有効である。空調も適切に配慮されており、ソファ、畳、テーブルコーナーの3つのエリアがあり、利用者はそれぞれの場所で自由に過ごしている。壁には利用者が制作した作品や事業所行事の写真が飾られており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を変えたり、畳スペースで過ごしたり、居間で休まれたり、ご本人の状況に応じ対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	思い出の品を居室に置いたり、好みの物を置いたりして一人ひとりに合った居室にしている	居室は換気扇・エアコン・暖房機・電動ベット・クローゼット・ナースコールが設置されており、必要に応じて畳に布団やポータブルトイレ等に対応している。利用者は使い慣れた小箆箆・イス・小机等全て自由に持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。居室は清潔に保たれ、プライバシーも確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じ、安全に生活が出来、出来る事はご自分でやれる様支援している		